

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

宣教聖日の月を迎えて

宣教は神の愛の実践から

世界宣教局長 梅田登志枝



「しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者となるのです。……どんな被造物も私たちの主イエスキリストにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」（ローマ人への手紙八章37、39節）。

新型コロナウイルスに影響を受け続けているこの年も、教団では宣教聖日を含む月を迎えました。今なお宣教師たちは各国の実際対策のため、出入国に不自由を強いられ身動きが取れない状態にあります。けれども今年も、世界宣教のために全国の教会の変わらないご支援をいただき感謝いたします。

新参者のウイルスの攻撃は人間の生命を奪うだけでなく、社会の仕組みや人間の生活様式を変え、人間同士のあらゆる距離を引き離そうとしました。社会的距離を取り、会話や交流を控えるように求められた結果、人間関係や組織に分断や亀裂、対立や格差が生じやすくなる危険性が生じました。その意味で教団や教会、そして家庭にとってもコロナ禍はその成熟度が試される機会であると言えるのではないのでしょうか。

冒頭の聖句は宣教師パウロによるローマの信者へのことばですが、またコロナ禍を通りながらも宣教の使命を託されている私たち、教会への励ましのことばでもあります。

パウロは宣教活動において多くの迫害を経験しました。けれどもどのような苦難も禍も神様の愛から私たちを引き離すことはできない、と述べています。

むしろこのような時だからこそ、この神様の愛を伝える宣教の働きは必要とされています。その愛の顕れであるキリストの十字架のもとに、様々な違いを乗り越えて、教会も信者も心一つに結集し、そこから宣教に前進するところに、圧倒的勝利が約束されているのです。

そのためにもこのコロナ禍を通して、まず自分に注がれている神様の愛を再確認するの必要に迫られないでしょうか。たとえ教会での礼拝や集会、そして神の家族との交わりが絶たれたとしても、引き離されることのない十字架に示された神様との愛の絆をしっかりと確認できたならなんと幸いでしょうか。

さらに、神様の愛をいただいた者として、自分が神様の愛に生きて、実践しているかをあらためて問われるのです。先の見えない不安に加え、分断と亀裂が起きやすい危機的な社会にあって、神様の愛に生きる信者の存在こそが宣教の大切な役割を果たすことを覚えましょう。

世界宣教局では今年も私たちがいただいた神様の愛を実践するために、宣教コイン献金による「愛の泉プロジェクト」に取り組みます。宣教地の病院の医療機器や安定した電気供給のためのシステム、また牧師育成や神学校の共有パソコンの購入など、現地の具体的な必要を支援する献金です。僅かな捧げものであっても、与えられた神様の愛を実践し、世界宣教の働きに参加する機会としていただければ幸いです。

目次

- 1 宣教は神の愛の実践から……梅田登志枝……1
- 2 宣教聖日を迎え、選挙管理委員会から……2
- 3 JEA宣教フォーラムの意義、参加者の声……3
- 4 海外トピックス、国内教会局コラム、YS報告……4
- 5 関東南ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 6～8 広げた翼……6～8
- 9～11 聖宣神学院報……9～11
- 12 公報、消息……12

11月15日は宣教聖日です

 世界への宣教を覚える月
 祈りと献金によって



世界宣教局長 梅田登志枝

「イエスは彼らに言われた。『全世界に出ていき、すべての造られた者に福音を伝えなさい。』」

コロナ禍の年でしたが国内教会の変わらないお祈りとご支援によって宣教活動を継続することができました。常日頃のお祈りとご協力に心より感謝申し上げます。教団では11月を宣教月間とし、特に世界宣教を強調する月となっております。今年の宣教聖日は11月15日(日)となります。宣教のために祈り、献げ、立ち上がる月となりましたら幸いです。

◆宣教聖日と特別宣教献金

宣教聖日あるいはその前後の聖日に、世界宣教のために祈り、関心を持つ方が起こされるための礼拝を持っていただけたら幸いです。また礼拝献金の一部を「宣教聖日献金」として世界宣教局までお献げいただければ感謝です。

◆宣教ビデオ

今年も宣教ビデオをお届け致し

ます。今回は引退後も、なおボリビア福音教会に協力しておられる三森邦夫宣教師のご報告もありません。各宣教会からの報告、宣教メッセージなどがDVDでチャプターごとに収録されています。

◆コイン献金

コイン献金の新しいラベルをお届けします。希望者の方々に配布いたします。コイン献金は「愛の泉プロジェクト」として宣教会から申請され、世界宣教局で承認された具体的、実務的な必要のために用いられます。

・昨年度は2,002,060円。
 ・「愛の泉プロジェクト」支出総額は539,670円。プロジェクトは次の通りでした。
 ①カンボジア・本部献堂式支援、教会用楽器
 ②ケニア・皮膚移植のための替刃
 ③フィリピン・聖書大学の台所
 ドア修理、炊飯器とキーボード
 ④ザンビア・宣教訪問団の奉仕用ペンキ、倉庫の中の棚の材料など

・残額は宣教師活動費として宣教のために用いられました。諸献金が教会への振込などになっている方々もおられるかもしれません。今月はコイン献金分もお加えいただければ感謝です。

◆宣教訪問団

状況を見ながらではありませんが、ケニアに2022年春、若者を中心とした宣教訪問団を送ることを検討しています。具体的に決定され次第、教報やホームページなどを通して公表いたします。

総会は2021年2月11~12日

公告 選挙管理委員会から
 第22次教団総会
 総会代議員名簿

選挙管理委員長 宮崎聖輝

◇総会代議員の選出

去る9月15日を締切にして、第22次総会教職代議員選挙を行いました。投票資格を持つ全教役者200名から189票が返送され、9月30日の開票・集計作業を経て24名が確定しました。

信徒代議員については、全国の教区及び地区がそれぞれの実情に応じた選出方法により、計24名を選出しました。

◇代表候補者の選出(予備選挙)

次は、次期代表を選出するための予備選挙(代表候補者3名を選出)を行います。この選挙の被選挙者は、教職代議員と職責上の教職代議員(現教団運営委員)の中で年齢制限に該当する方(名簿で*のついた5名)を除く計31名。

10月下旬に予備選挙の投票用紙を発送し、投票締切は11月16日(当日消印有効)です。その後開票・集計作業を行い、候補者3名を決定し、教報1月号の紙上で、氏名を公表します。

この選挙は互いに繁忙な時期と

重なりますので、早めの返送をよろしく願います。

第22次総会代議員氏名公告

2021年2月11日~12日に開催される第22次教団総会の代議員として、以下の62名が選出されました。(敬称略)

■教職代議員(総会代議員選出規定)に基づき五十音順・24名
 朝比奈悦也*(大阪伝法)
 内山忠信(呉)
 梅田 昇*(中目黒)
 神谷光一(秋田)

河村從彦(聖宣神学院)
 北田直人(松戸)
 國重潔志(福岡)
 佐藤信行(立川)
 田辺岩雄(千葉)
 田辺寿雄(王寺)
 葛田聡毅(堺)

葛田順子(浜松)
 葛田敬子(神栖)
 葛田直毅(浜松)
 葛田康毅(札幌)
 南場安正(松江)
 野田 禎(富士見台)
 浜田耕三(島田)
 平瀬義樹(台湾)
 藤本 満(高津)
 古川恵子(上田)
 細田恒太郎(仙台)
 宮崎聖輝(木更津)
 吉村和記(久留米)
 内山 勝(代表)
 寺村秀嗣(総務局長)
 岩上祝仁(国内教会局長)
 梅田登志枝*(世界宣教局長)

小川宣嗣(教育局長)
 林 正弘(聖宣神学院院長)
 川嶋直行(北日本B A)
 田中 進*(関東南B A)
 葛田崇志(中部B A)
 大兼久芳規(西日本B A)
 阪下 謙(南日本B A)
 黛 睦子*(女性牧師部部长)
 以上、教職代議員 計36名

■信徒代議員(北から・24名)
 村岡忠至(札幌)
 村上敦郎(仙台)
 櫻井和人(大宮)
 猪狩友行(船橋)
 岡本恭子(市川)
 吉岡隆二(千葉)
 越山信行(中目黒)
 森 一朗(立川)
 大塚一雄(八王子)
 玉木欣也(高津)
 館野純生(聖宣神学院)
 内田信也(清水)
 小原一夫(浜松)
 鈴木あゆみ(岐阜)
 田井 豊(長岡)
 坂岡隆司(京都伏見)
 谷 秀史(神戸)
 岸川萌木(王寺)
 里村佳子(呉)
 福岡義信(香川)
 縄田房照(福岡)
 井上早苗(長崎)
 林 美行(熊本)
 下地優貴子(那覇)

▲職責上の信徒代議員(2名)
 齋藤純雄(深川)
 中山朝雄(中目黒)

以上、信徒代議員 計26名

JEA 宣教フォーラム開催 開催の目的と意義 コロナ禍での教会

国内教会局長 岩上祝仁

日本福音同盟（JEA）では毎年一回秋に宣教フォーラムを各地で開催してきました。宣教フォーラムには二つの使命があります。一つは7年毎に開催される日本伝道会議の間をつなぎ、JEA主体で行われるプロジェクトの働きを確認しさらに進める役割です。具体的な宣教協力の実が毎年残されています。もう一つは日本各地で開催することで、各地の福音派教会の交わりと宣教協力の実現です。フォーラム開催のために地方の教会が協力することで交わりと協力体制を整えてゆきます。今年には本来なら東京で会合を持つ予定でしたが、新型コロナウイルスのために集まる事ができませんでした。その代わりにインターネットでの宣教フォーラムが開催され、今まで難しかった全国からの参加者が与えられて、250名を越えました。その中で、コロナ禍の中での教会のあり方を見直し、日本だけでなく世界大の宣教協力の大きな可能性を見たフォーラムでした。

JEA宣教フォーラムに参加して チャレンジの時かも でも配慮も忘れずに



岐阜教会 大場広子

9月29日（火）、30日（水）にZoomを用いて開催されましたJEA宣教フォーラムに参加させていただきました。

2日間で3つの分科会に参加しましたが、そのうちの一つ「旧約聖書における律法の柔軟な運用」「いっしょに集まる幸い」を通して考えさせられたことについてお分かちします。

新型コロナウイルス感染拡大により、集会の持ち方の変更を余儀なくされた教会が多いことと思います。また、多くの教会で集会後の会食を休止していると聞いています。そのため、今まで当たり前のようにしていた交わり、みことばの分かち合い、祈り合う機会が激減しているのではないのでしょうか。私が遣わされている教会はそれに該当します。それでもなお、信徒の皆さんがお互いを気にかけることができるように、お互いのために祈り続けることができるように、そして、その関係が希薄に

ならないようにとお祈りをしました。

そのような時に宣教フォーラムの分科会を通して「集まり方には多様性があること」「多様性があるのだから、一つの方法にこだわらなくても良いのでは……」という言葉に目が開かれました。具体的には、現在主流になっているZoomを利用しての分かち合い、食事会、オンラインキャンプなどが取り挙げられました。すでにイマヌエルの中でも行なっている教会があると聞いています。今年には、とにキャンとYSSもZoom開催されました。

コロナ禍が続く、デジタル化が進む中、教会に関係する子どもや青年たちは今まで以上にインターネットを活用することでしょう。

しかしその一方で、教会には高齢の方々がおられます。また、年代を問わず、インターネットを得意となさらない方がいるかもしれません。ですから、対象者によって対応が変わります。配慮が必要です。しかし、御霊の導きを確認したのなら、自分の思いや考えなどに固執せず、新しいことにチャレンジしたいものです。御霊の導きに従うとき、新たな形で主を中心とした交流が生まれるのだと思います。そして、そこに新しい恵みが備えられていると信じます。

「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」（マタイ一八章20節）

JEA宣教フォーラムに参加して

神からの強制リセットなのか 支え合う新しい文化を



豊田教会 高山清和

9月29日～30日の2日間に行われたJEA宣教フォーラムに参加しました。2日目午前の「コロナウイルス禍での教会——宣教の課題と可能性——」の講演から感じたことをお分かちします。主観的な感想であることをお許しください。

講演を通して受けた印象は、主にある励ましと希望です。冒頭、講師の中西雅裕先生はコロナ禍を「神からの強制リセット」と位置付けて語られました。神がリセットされたのなら、神が次の扉を開かれるはずで、そこに大きな励ましと希望を得たのです。

その具体的なものが、インターネットを活用した礼拝・交わり・宣教です。ネット世界に対する危険性や懸念があることは承知の上で、これを活用することで、今まで福音に触れることがなかった方々に福音を届ける可能性が出てきました。これまで教会が大切にしてきた人と人が交わる文化とオンラインによる新しいチャンネル

を融合させた先に将来の教会の姿があるような気がいたします。

一方で社会が大きく変わろうとしている中で、弱さを抱える方々にどのような寄り添い、支えていくのかという信仰者の在り方が問われていると感じました。講演の中で、従来の教会は強い人のものであったと語られ、健康で時間があり人と交わることが苦でない人が集まる場が教会であったというのです。コロナ禍は弱い人の存在を浮き彫りにし、そのような方々に信仰者は愛をもって関わる事が求められていると語られ、とても共感しました。立ち止まってキリストの愛の表し方を考える良い機会にしたいです。

また、集まることや交わりの制限が長期化するとき一番心配なのは孤立です。じわじわと疲れやストレスが溜まります。これをリモートで補うことには限界もありますから、教派教団を超えて地域内の教会で支え合うことができます。未知の世界に踏み込んだばかりですから、できることから取り組み、経験を積み重ね、得られた情報を共有して福音のために牧師も信徒も共労したく願わされま

た。教会は社会に出ていくようにと言われて久しいですが、そうせざるを得ない状況が来たのだと思います。「散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた」（使徒の働き八章4節。Withコロナに主の御業を！

国内教会局から

教会建設の務めに
ポスト・コロナに向けて

この秋少なからず衝撃を与えたニュースの一つはキリスト教書店の日本CLCの働きの終了です。1941年英国のとある港町で始まった主のみわざですから、まさに戦禍の中



で生み出された伝道プロジェクトです。1950年にその働きが敗戦国日本に届いた当初から、私たちの群れとも深い交わりを頂いてきました。この働きは一貫して文書

と訴えておられ、地元諸教会がその声に共鳴し、応答をしているところです。店舗の場所や形態等は大きく変わらざるを得ないでしょう。これもコロナ禍の影響です。しかしこれは伝道の新しい形への移行と受け止められます。クリスマス

の準備を始めながら、店長とそのような挨拶を交わしました。(葛田崇志)

に、目指すところへ『BUILD(ビルド)』されることを願って。

中国でプロテスタント教会への迫害が激化 中国全土の「家庭教会」を始め「三自教会」も家宅捜索を受け、閉鎖されている。信者は尋問され、自宅も捜索されていると、イタリアのトリノを拠点とする『新興宗



海外トピックス

最近では、政府管理下にある「三自教会」でも迫害を免れない。9月13日朝、山東省東部の済寧市梁山県の「三自教会」で礼拝中に、警察官と政府関係者8人が会場に乱入。「新宗教条例では違法とされる集会に参加した」とされ、警察官は聖書4冊を没収し、集まっ

ていた人たちに「信仰が必要なら共産党を信じろ」と言い渡した。その日の午後、警察官が戻ってきて、入り口の鍵を壊して会場に侵入し、献金箱と椅子100脚を略奪した。 これらの動きは、「キリスト教を徐々に排除するために、政府はあらゆる手段を使って宗教施設の閉鎖を図っており、信者の数が共産党員の数を上回ることを恐れているから」とも見られている。

ア、2026年の完成不可能に 建築家アントニ・ガウディ設計として知られる同教会は1882年に建設を開始した。完成予定の2026年はガウディ没後100年に当たる。 教会の建設費は入場料や寄付によっていたが、昨年2019年7月

月1日の入場者約1万5600人から、今年は約2千人に。責任者は「奇跡が起きなければ、2026年に工事は終わらないだろう」と述べている。(平瀬聡樹)

"問う"対話プラットフォーム

新企画 『BUILD(ビルド)』

9月19日(土)から始動

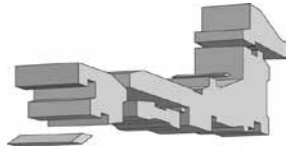
神戸教会 吉村 聡

いと願う目標でもあった。そのため今回の Youth Stationでは、問うることによって得られる結果以上に、「クリティカル・シンキング」として表される「問う」姿勢とその重要性にフォーカスを当ててプログラムが組まれていった。 しかしここで、設定されたテーマの性質上、従来の Youth Stationのように単発的ではテーマを十分に網羅することは難しく、それを補うために継続性を持った企画の必要性が持ち上がった。

先日、全国 Youth Station が行われた。タイトルは『ダウト!!』あたりまえを問う。教会や信仰生活の中には、かくあるべきと謳われる、あるいは暗黙の了解として囁かれる「あたりまえ」がある。もちろんその中には自明なこととして受け止めるべきものもあるが、時として、横行する「あたりまえ」を前に教会や信仰生活の中では「問い」の現場が発露していく現状があるように思われる。そこに斬りこむ形で企画されたのが、先日行われた Youth Stationであった。キーワードは、批判的思考などと訳される「クリティカル・シンキング」。クリティカル・シンキングとは物事を批判的に(否定的にではなく)捉えることで、本質やより良い結果にたどり着こうとする営みを指す。

そんな要請を受けて、新しく発案・企画されたのが『BUILD(ビルド)』である。『BUILD(ビルド)』は「ダウト!!」あたりまえを問うことで得た「問う」ことの意義と目的を発露させる場として設けられ、そのため『BUILD(ビルド)』では Youth Stationに引き続き「クリティカル・シンキング」をキーワードにしながら、様々なテーマやトピックスが扱われる。 月に一回のペースで、オンラインツールを用いた運営スタイルが設定されている。このことも、従来にない新たな側面を生み出すことに期待がかかる。そこに集う参加者一人ひとりが、「クリティカル・シンキング」を軸にしながら、掲げられるテーマのもと、行われる様々な取り組みに触れることで生まれるものが資材となり、各々願う形に、あるいは導かれるままに、目指すところへ『BUILD(ビルド)』されることを願って。

国内教会局 スクエア



関東南ブロックの

近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

田中 進

●東関東教会(田辺岩雄主事)

新型コロナウィルス禍の中を、11教会がここまで歩みを守られている事に、主の憐れみと恵みを覚え感謝しております。

この教会は東京近郊と、それ以外の地域とでは感染者数の幅がずいぶん違い、各教会の対応にも違いが出ています。現在、礼拝を休止している教会はありませんが、集まっていた活動を休止している教会もあります。インターネットの利用も、この期に始めた教会がありますが、まだ十分にいきわたっていないとは言えないようです。春の教会会はメールや文章で行い、東関東聖会は中止しました。秋の教会会は、Zoomによって行い、初経験のオンラインによる情報交換を体験できました。

秋からクリスマスまでの諸行事は、予定通りの所、全てをキャンセルせざるを得ない教会と様々です。祈りの課題▼教会から感染者が出ないように。▼経済的に支えられないように。▼知恵が与えられ、伝道が進み、受洗者が与えられよう。▼健康の闘いの中にある牧

師たちが支えられるように。

●東京教会(岡信男主事)

深川教会では人数制限の礼拝とZoom礼拝を並行しています。CS、祈り会、聖書の学びもZoomを活用しています。中目黒教会は10月から60人程度の定員で会堂での礼拝を再開しました。YouTubeライブ配信も継続しています。白鳥教会は5月のコンサートを中止しました。伝道のための良い知恵が与えられるように、またネット環境の整備を求めています。王子教会は松井元始先生が着任し、7月から礼拝を二部に分けて行っていますが、他の集

会はまだ再開していません。板橋教会は副牧師に大谷のぞみ先生が着任しました。現会堂の解体、新会堂建設に向けてスタートしています。富士見台教会では10月にオンライン・コンサートをを行いました。12月にも同様の企画をしています。武蔵村山教会は、中尾敬一先生が着任し、オンライン集会の充実を図っています。立川教会は礼拝をはじめ、休止していた集会を、8月から徐々に再開し始めて

います。八王子教会では10月から礼拝、夕拝の再開に踏み切りました。伝道の方策に課題を覚えています。鯉沢教会は5月から6月にかけて礼拝、CS、祈禱会を再開しました。甲府教会は集会を休止することなく、7月8月には、中高生とその家族の newcomer が多くありました。

●神奈川教会(矢木良雄主事)

高津教会は2月の最後の聖日からYouTubeのライブ配信で礼拝を行っています。特別賛美や器楽演奏など以前の雰囲気を入れていきます。藤本栄造先生、幸子先生は90歳を超え精一杯最後の馳せ場を歩いています。神学院教会は3月5月はオンラインで、6月から礼拝と礼拝後のCSを再開、今はオンラインと併用しています。毎週ニュースレターをメールと郵送で発行しています。横浜教会は3月半ばから5月まで礼拝を自粛しました。YouTubeとLineで牧師のハーマニカ賛美演奏とショートメッセージを発信しました。桂町教会は3月からYouTubeで礼拝説教の配信を開始、続行中です。出席してくださる会員と共に

に礼拝は普段の通り行っています。湘南中央教会はライブ配信を中心に礼拝を守っています。礼拝に出席し信仰に導かれた方も興ざれ感謝でした。リーフの配布も実施しました。葦山教会は近くの教会員は礼拝に出席しています。遠隔の方はLineでの配信と、工夫しながら対応しています。

◆この9月13日に、当教会は開設55周年を迎えました。その日には以下の2つのことをしようと1年前から決めていました。①講師をお招きし礼拝と伝道会を持つ。②直近5年間の証し集を発行する。なぜ5年間かと言えば、5年前の50周年の年に、50年分の歩みを纏めた、教会としてはそれまで一番分厚い証し集を発行していたからです◆しかしコロナのことがあり、①は断念しました。けれども、講師として来会予定だった先生が、証し集に寄せられた以下のことは、講壇での説教以上に私には重く響いたのです。曰く「…：教会の働きは終わったわけではありませんが、釈迦に説法の感じがしないでもありませんが、教会の規模がどれほどになっても、『次の一人』に『キリストが形造られる』こと(ガラテヤ四・19)を目指して、健康の維持への不断の留意、地道な聖書説教の継続、不断の祈り、一見小さいと見える事でも教会の建て上げに必要と思われることを手抜きをせずに言い続ける事を心して進まれること祈っています。」

◆それとともに、こうした先生方を始め本部や全国の教会の、不断の祈りと配慮に支えられてきたからこそ当教会の今があると思えます◆今日の午前には会員一同で感謝の礼拝を捧げた後、ダビデに倣い(IIサムエル六・19)女性部が手配したおいしい和菓子とペットボトルのお茶を各自が家に持ち帰りました。また午後には集まって感謝の証しをし、説教の後に聖日を締めくくったのです。記念すべき1日でした◆さて②の「証し集」ですが、昨今は信徒が皆で力を出し合い一から十までのすべてを担って作成しています。しかし、1年有余の準備期間があったとはいえ、今回は様々な言い訳ができる、忙しい1年でした。それが、あれこれと口だけは出す私たちを皆が受け入れ、時には訂正に応じつつ、しかも予定通りに静かに『証し集』を完成させたのです。有難いことでした◆これを書いている現在、当地ではコロナの罹患者がどんどん増えています。この先がどのようなかはわかりませんが、教会全体が心を合わせ「次の一人」を目指して歩んでいこうと思っています。(久保以津子)



次の一人を目ざし

巻頭言

キリストの証人として



世界宣教局
葛田 敬子

「散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。」(使徒の働き八章4節)
宣教月間を迎えました。今年のご承知のように、帰国予定の宣教



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

師が戻れなかったり、赴任予定の宣教師が出発できなかったりなど、新しく「予定」を立てることも難しさを覚える状況を通じています。しかし、それぞれの置かれた場所、主は宣教のために器方を用いてくださり、全国の皆様のお祈りと変わらぬご支援の故に、心から聖名を崇めております。冒頭の聖言は、迫害によってエルサレムを追われたクリスチャンたちの姿を記しています。ペンテコステ以降、キリストの弟子となる者が加えられ、エルサレムには大きなクリスチャンの群れ、教会が育っていきました。しかし、ステパノの殉教を境に迫害は激しくなり、人々は「ユダヤとサマリヤの諸地方」(一節)に散らされ、一章8節の御約束のように、キリ

ストの証人たちはエルサレムから広がっていきました。

人々は入念な計画によって派遣されたわけではありません。信仰を同じくする者たちが共に集い、キリストの教えを受け、交わり、心を合わせて礼拝を捧げることで、できる「当たり前」の日常が奪われ、エルサレム以外には教会が存在しなかった時代に、エルサレムの外へ「散らされて」いったのです。けれども「教会」は彼らの「中」にありました。人々は教会から離れて散らされていったのではなく、予期せぬ形であったかもしれませんが、教会が人々の移動とともに広がっていったのです。

コロナ禍の影響下での教会の対応を簡単に判断し、評価することはできないでしょう。しかし、例えば、リモートによる礼拝を通して、普段教会においでにならない未信者の家族の方々が福音に触れる機会になったり、様々な事情で来会の叶わなかったクリスチャンの方々が礼拝に連なることができたり、というようなことを伺うにつけ、私たちは、どのような状況下にも働いておられる主の御前に謙って従う心、信じて待ち望む心を失ってはならないと思うのです。鍵は、散らされた一人一人が自然に、当然のこととして、会う人会う人に伝える「みことばの福音」を自分のものとして、贖われた新しいいのちを生きていたことです。

この秋も、教会を通して聖霊の働きを見せていただけますように。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2020年10月7日

「あなたの口にある主のことばが真実であることを知りました。」(第一列王記一七・24)

◇ロザリス・ウエスレアン・アカデミーのネット環境調査

子どもたちが通うロザリス・ウエスレアン・アカデミーでは、オンラインクラスで教える教師たちのためにインターネット環境が整備されましたが、どうも不具合があるので見てももらえないかという依頼があり常喜が原因を調査することとなりました。結果は、ワイヤレスのシグナルを発信するルーターに原因があり、またそのルーター自体もアカデミーが契約したサービスで提供されるはずのものとは異なっていました。他にも必要な改善点を見つけ、校長先生に報告しました。

◇Zoom 宣教祈禱会

巡回で訪問する予定であった中目黒教会の宣教祈禱会にお招き頂き、コロナ禍にある私たちの現状報告とメッセージの奉仕をさせて頂きました。

頂きました。

メッセージはエリヤの祈りから語らせていただきました。Zoomで祈禱会を始めてから最も多い41名の出席者が与えられたということと伺い御名を崇め感謝致しました。こうしたツールを用いて国内の教会と繋がる事ができていること、またともに教会と宣教について折り合うことができる幸いなときとなりました。

◇JEA宣教フォーラム

月末にはJEA宣教フォーラムにZoomで参加することができました。次世代への宣教や国内と国外を繋げる橋渡しとしての宣教師の役割について考えるよい機会となりました。





TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2020年10月9日

◇宣教ツアー後の恵みの波紋へ

10月を迎え、台湾は、二週連続して週末(中秋節、国慶節)が四連休、三連休となっています。9月の新学年スタートからはや一か月。子どもたちの学校生活の倦怠感や疲れを癒す意味でも、ちょうどよい時です。海外旅行は厳格な出入国管理によって依然として停止されていますが、先月より既存のビザ所得者の入国が再開し、今月からは新規も含めたビザ有入国(主にビジネス、留学)の受入れが本格化しようとしています。世界のフェーズとはやや異なる平穩な国内にあって、どのようにウィズコロナを進めて行くか注視しつつ、諸外国との往来解除が心待ちにされています。

台中教会では、8月末の宣教ツアー(台南日本語礼拝での福音礼拝の奉仕)でのいろいろな交わりと語らいを受け、その恵みが波紋のように広がっていついています。9月の礼拝と朝夕の祈禱会でも、

「使徒パウロの回心の出来事」をテーマに、毎週、学び続けてきたこともあり、教会メンバーの中に、自分のもっている信仰の証をしようとの思いが芽生えてきています。ある方は、個人的に自分の救いの証をまとめ始めました。また、ある方は、いつものバス通勤の車中での出来事を通して、証の機会が突然、訪れたことに大きな驚きを隠せません。これまで祈禱会出席を諦めていた(本人の言葉では、無理なので初めから行こうとは考えていなかった)方が、集

会出席の大切さと祈りの必要をコロナ禍以降、強く示され、戦いつつ、毎週励むようになりました。先日、午後台北の会議で、夜は間に合わないとお休みの連絡を教会に入れたすぐ後で、会議そのものが予想以上に早く終わり、新幹線に飛び乗って、祈禱会に駆け込んで来られ、祈禱会に来ていたみんなを大いに驚かせました。これまで学校内で、自分がクリスチャンであることを公言していなかった方が、それとなく伝えると、同僚の先生も生徒も、みんながすでに知っていたという笑い話もありました。それぞれが、神さまから与えられた光に即応する形で、自発的に、積極的に取り組んでおられる姿を見守りつつ、ウィズコロナ、アフターコロナという、このようなフェーズだからこそ、芽生えた信仰の気付きと、私たちの心に働いて志を立てさせなされる恵みの奇しさ、そして主の時を強

く覚えていきます。一步一步の歩みですが、主の御業は静かに、表面には出てこない心の中で、けれども確実に進められていることを感じるこの頃です。

台南日本語礼拝でも、台中よりの恵みの使者を心から喜び、証と交わりを通して、より具体的なチャレンジと示唆を受け取られました。フェイスブックで、すでに配信されている映像や音声の微調整、証や祈りに日本語の字幕を付けて再編集するなど、よりよいものにするために賜物を持ち寄り、フルに活用する働きが変わってきました。

◇南聖チームの台湾一周と神学院のための祈り

この月は、台南聖教会の有志の牧師・スタッフチーム 総勢30名がスクーター10数台と伴走車に分乗し、5泊6日の台湾一周旅行を決定され、1日ごとに各地のゆかりのある教会や神学校、孤児院や養護施設などを安問し、祈りと交わりの時がもたれました。台中にも立ち寄るとの日程を耳にし、私共にとっては急なことでしたが、半日でしたが行動を共にする機会が与えられました。台中には、80年の歴史を有する「中台神学院」(ホーリネス系)があります。借地権などの諸事情で、現在は市内の協力・支援教会の中に仮住まいのように移り、はや十数年となります。この度、台中郊外に六千坪の土地が与えられ、四年後を目標に神学校を再開校することのこ

で、その土地を視察し、広大な敷地で、学長夫妻の証と説明、ビジョンに触れ、皆で祈りをささげました。「我にこの山地を与えたまえ。あなたは私たちの祈りに豊かに答えて下さいました。十数年の祈りのうちに、新しいビジョンを受け取りました。あなたはこの地に根を下ろし、働きを進められます。御心にかなうものとして下さい。」との学長の祈りに心を合わせつつ、将来、ここに二百名を超える神学生が学びますとの証しに大きな可能性と信仰を見ました。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2020年9月28日

3への引き上げにより、再度見合わせることになりました。来年の1月中には再赴任させていただくことを予定しています。予定を立てることが困難ではありますが、神様の最善の時に最善の方法で進められることを信じその時を待ちたいと思います。

ザンビア行きが延ばされたことで日本の病院で再度働かせていただく機会を得ました。職場は前回からお世話になってる病院で、出入りを繰り返し迷惑をかけているのですが、見通しが立たない中にいる私を迎えてくれました。ザンビアに宣教師として送っていただいています。ザンビアにいる時のみが神様の働きというわけではなく、今、日本に留まっている時も、神様が与えてくださった場所として証人として居続けたいと思われています。先が見えない現状に焦って振り回されるのではなく、今の場所に変わらず居てください、ゆるがぬ礎となっていてくださる方に心を休めて、目の前のことを見失わないように歩むものと祈られています。

主の御名を賛美します。早くも今年が9か月過ぎ、暑い夏を越えたとしたら、朝晩冷え始め一気秋の訪れを感じるようになりました。日本の四季が移りゆくのを感じながら支えられ、守られていることに感謝します。先月の広報でお知らせさせていただきました通り、ザンビアへの渡航は8月下旬に外務省からの渡航勧告レベル

ザンビアを含めアフリカ全土は他大陸と比較するとコロナ感染症の広がりは緩やかで、比較的守られているようです。ジェンボクリニックでもまだコロナ感染者の報告はされていないことに感謝しています。時折現地の友人やスタッフと連絡を取ることができ、彼らの働き、生活が守られていることを伺え感謝です。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2020年10月6日



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2020年10月8日

外務省から渡航中止勧告があり再赴任が遅れています。何とか来年1月には再赴任できることを願いつつ日々を送っております。

何時再赴任できるのかははっきりしない中、今回はまとまって時間が取れたので特別に出かけることはしません。看護師の研修に出たいと思っております。看護協会の研修は、コロナのために中止のままでしたが途中であると知らせがあつて期待しました。しかし結局まだ中止だということ、がっかりしました。ある日何気なく近くの病院に入って現状などお聞きした時、研修がてら来てても良いと言ってくださり、通ってみるまで様々な日本の発展と変わりように目をみはるばかりです。驚きの中、少しでも患者さんを看護できることの喜びを感じております。新しいことに体力も試されませんが、良い訓練の時を頂いたと思っております。

3年先までワークパミット(ビザ)が下りました。お祈りを心より感謝。

今回は、ナクルで手続き。空港閉鎖前に滑り込み赴任された、新任のA宣教師夫妻宅に宿泊。都市部の治安悪化、稼働宿泊施設の減少と料金の高騰の中だったので感謝。A夫妻は会計の必要に応じて赴任。WGM宣教師のためにアメリカとの調整もあるので、ケニア人のスタッフ以外にアメリカ人のスタッフが必要。以前は長期の宣教師がおられましたが、最近短期が多く、間は他の宣教師が自分の持ち場の合間に兼任。

感染予防の観点から縮小が求められた時、「6か月以上待てない」患者さんを優先に、心臓外科手術は続行。手持ちの資材が無くなる前にリストの患者さん方が終了、感謝。中心のW宣教師の一時帰国を受けしばらく心臓外科手術は中断。アメリカ研修中だったA医師の赴任で、再開。A医師はエチオ

ピア出身、PAACSプログラム(汎アフリカクリスチャン外科医養成アカデミー)の一期生。卒業後テヌウェク、エチオピア、別のアフリカ国を経てアメリカへ、そこから今年テヌエクに再赴任。同期のO医師とともに、W宣教師不在の中、心臓外科チームを牽引。心臓外科手術再開に先立ち関係者ミーティング。現在の課題、解決の目途等、どこでもしているような病院の会議。が、お祈りとみ言葉で始まり、報告の端々に他のチームへ謝辞があり、報告や提案の方向性を見、賛美で締めくくられるミーティングに同席しながらミッション病院で奉仕させて頂く幸いを味わう。

9月のテーマは「愛」。「赦しを請う日」「更に患者さんに愛を表わす日」「互いに贈り合う日」なども。少人数ずつ開かれた、霊的強調週間の営みも。

新型コロナウイルスの感染率減少を受けて規制が更に緩和。反動で感染が増えないようにつらみつつ対応。病院スタッフ一名が感染、自宅療養中。自宅周辺か通勤途中での感染らしい。10月から、一部海外からのボランティアの受け入れ開始予定。いつも以上にストレスの多い状況で、年間80人程来られていた助っ人なしで数か月奉仕が続いている医師たちとその他スタッフのためにお祈りを。最近、近隣の公的な病院がストライキに入り、患者数は増加中です。

お祈りの課題

香港(鹿島)

◆10月より3か月ぶりに再び集まって礼拝を捧げられるようになったことへの感謝

◆コロナ禍で経済的な戦いの中にある兄弟姉妹方のため、秋の救霊の戦いのために

◆歴史的な転換点にきている香港の政治・社会秩序の安定と経済的な回復のため

◆学生たちの健康と霊性のために、そしてリモート学習スタイルに一日も早く慣れるように

◆コミュニケーションガリモート学習を通して、うまく取れるように

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように

◆コロナの状況が終息に向かい、ジェンボのスタッフと家が守られますように

◆ザンビア(富澤)

◆ザンビア帰国への道が開かれますように

◆10月からの病院での働きが守られるように

◆1月の再赴任が許されるように

◆主を愛し、教会に仕える喜びがさらに恵みの波として広がりに続け、

◆台湾(平瀬)

◆主を愛し、教会に仕える喜びがさらに恵みの波として広がりに続け、

◆毎週、集っておられる慕道友(求道中の方々)が明確な救いの信仰に立つことができそうですように

◆台湾の政治と経済、教育、治安が安定し続けるように。海峡を挟んで、緊迫した状況が守られ続けるように

◆日本にいる子どもたちの心とからだ、生活が守られますように。日本で初めての秋から冬を迎えようとしています

◆ケニア(葛田就子)

◆感染爆発が抑えられていることは感謝です

◆ウィルスの様々なストレスにある医師と他のスタッフのため

◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカ10章2節)が興されるように

◆カンボジア(葛田就子)

◆コロナ禍による国際的変化はカンボジアにも暗い陰が。一つは政府の宗教庁から今後政府に登録していない教会は認めないと同時に新たに登録する事も許さないとの発令が。登録が受理される条件である教会員数、資産が条件の線に届いていないため登録が拒否されてきたとのこと。隣りの大国にみる教会強圧と同じ道に持ち行かれざるよう、今後の戦いのために勝利に向けたお祈りを願います

◆ウエブで配信されるヴァンデイ師のメッセージを聞いた千人余りの方々から教会を探して道を求める方々が興され、また先生の御両親、ご親族の救い、教会の救霊の結果のため、お祈りください。

◆ウエブで配信されるヴァンデイ師のメッセージを聞いた千人余りの方々から教会を探して道を求める方々が興され、また先生の御両親、ご親族の救い、教会の救霊の結果のため、お祈りください。

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

前のものに向かって

院長 ● 林 正弘

「ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、……目標を指して走っているのです。」

(ピリピ三・13、14)

9月に夏期実習を終え、先月は、2つの集中講義が行われました。例年行われていたオープン・キャンパスは中止となり、聖化大会への参加も特別な形となりました。それでも後期に向けてよい備えの期間となりました。

先月末から後期の授業が始まっています。私たちの歩みは、時間の経過とともに淡々と進められる面と、折々に区切りをつけて新し

い段階に進む面があります。始められた後期の歩みに主の祝福を期待しています。

キリストを知って価値観が大きく変えられたパウロは、確かな目標を与えられ、それを指して懸命に走りました。その姿勢は、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばす、というものでした。パウロはすばらしい経歴の持ち主でした。その熱心さによって教会を迫害したという痛みを伴う過去もありました。うしろのものを忘れるといっても、その過去はすべてなかったことにするわけではありません。過去があつて今

があるのです。私たちもそうです。しかし、過去は私たちを縛るものではありません。パウロに倣って、本気で目標を指して進んでいきたいと思えます。地上の歩みにおいて私たちが完全にされることはありません。目指すところはその先にあります。だからといって、今は適当に過ごして構わない、とはなりません。むしろ、前のものに向かって今を懸命に生きるのです。ゴールまでは楽ではありませんが、この道で間違いがない、という確信さえあれば、希望をもって進んでいくことができます。



神学院キャンパスも秋の気配が深まりつつあります

神学エッセー

福音理解の諸相 1 聖書の文章の行間を読む



戸塚雅昭

初めて聖書を手にしたのは小学2年生の時だった。友だちに誘われて通った日曜学校で販売していた、百円の新約聖書である。それ以来今日まで、何冊の聖書を買っただろう。何回全巻の通読したとだろう。みことばに親しむ恵みには格別なものがある。一方で、通読が形骸化する感も否めない。

のときのペテロの心情を想像してみよう。「俺たちはプロの漁師。申し訳ないが、先生は何も分かっておられない。今からでは捕れるわけない。でも、そんなに先生が言われるならやってみますけど」信仰的決断にはほど遠いペテロの半信半疑な戸惑いが見えてくる。長年の漁師の経験を理解してもらえない理不尽な主からのご指示。自分のことは自分が一番分かっているのに。渦巻く複雑な感情……ここが行間読みの醍醐味である。だからこそ直後の大漁の奇跡を目の当たりにして、ペテロは主の前に畏れをなし、罪深さを実感するのである。漁師としての長年の経験や自負心が覆されたペテロは、このあとすぐに、自らの生き方の方向転換へと導かれていく。

近年、通読とは別の親しみ方を覚えた。国語の授業で扱うように文章の行間の読解である。聖書の主に物語文の中で、場面の情景や登場人物の心情を、聖霊の助けによって思い巡らす。奔放な空想ではない。叙述に即した想像による読み、いわゆる行間読みである。例えば、ルカの福音書五章1節からペテロの召命の場面。5節で、ペテロはイエスさまからのおことばに次のように答えている。「先生、私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことはですので、網を下ろしてみましよう」主のおことばへの信仰的決断である。一方で、こ

行間読みの利点は、情景や心情の想像によって、読解の幅が広がり、みことばの思い巡らしが深まることである。また、書かれている言葉の理由となる背景や意味が浮かび上がる点は興味深い。さらには、登場人物の言動の裏に隠された揺らぐ思いに寄り添う時、共に主と向き合い、主から問われる立ち位置に自らが置かれている。実に福音理解を促す読みである。聖書に書かれていないことを読み取ることは、みことばに付け足す行為と同じではない。叙述に丁寧にごだわりながら想像力を駆使して、開けてくる恵みの世界を味わう喜び。みことば自体がそのように読まれることを求めている。

◆夏期実習を振り返って

背中

シニアコース 田中利道

「主は私のたましいを生き返らせ御名のゆえに私を義の道に導かれます。」(詩篇二三篇3節)

人は自分の体の半分しか見る事ができません。誰かが鏡のようになって、後ろ姿を見せてくれなければ、自分の背中を見る事ができません。夏期実習で母教会の先生方が祈りながら私のワイシャツの背中の汚れを教えてくださいました。教えてくださらなければ気が付かなかったと思います。そんなことがたくさんありました。

何気ないことばに、不安や、自信のなさが隠れていたりしたこと、余計なことを話していたことも気づかれました。掃除をしながら大きな音を立てていたことも、気が付きました。ドアを締める時、最後は丁寧にしめようとするようになりまし。自分がガサツであることを自覚いたしました。残念ながら、人は失敗し、痛い思いをしなければ良い習慣は身につけません。

規律のゆるみも、思い知りまし。日曜学校の準備は大変でしたが、

良い経験になりました。早天祈禱会のショートメッセージに、デイポーションの時に教えられたことがとても役にたつことを経験しました。常に祈りをお願いすることも大切だと思い知りました。パウロも自分のために祈ってほしいと、何度も言っています。あのパウロでさえ、祈りの力に信頼していたのですから、どんな働きであろうと、祈ってください、とお願ひしようと思いました。

右にも左にもそれないバランスのとれた信仰生活を基礎としてこれからも学び続けていきたいと思ひます。美しい規律ある生活と恵みの中に生き生きと生きる道を歩ませていただきたいと思ひます。

◆夏期実習を振り返って

地域性を捉える

正規コース 林 眞光

「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。」(1コリント九・19)

この夏期実習中に私は静岡県にある沼津シオン教会で一週間奉仕をさせていただきました。普段は東京の蒲田シオン教会で奉仕をさせていただいているのですが、こ

の一週間を通して感じた違いとそこから得た恵みを分かち合わせていただきます。

一つ目は地域の人の関係性の違いです。沼津に行くと感じたのは、田舎ならではの温かさがあるということ。一番驚いたのは歩いている人、また工事をして現場の警備員さんといさつを交わすところでした。都内では知り合い以外の人と外であいさつを交わすことはあまりあることではありません。田舎ならではの地域の人のとの関わり方や、距離感を知ることができました。

二つ目は地域の人の教会の関わり方の違いです。沼津での奉仕の時に子ども集会のチラシ配りを学校前で行いました。蒲田教会では学校前などでチラシを配るのに様々な困難があると思ひます。色々な集団や宗教の人がチラシなどを配る中で私たちがチラシ配りを行った時の地域の目、また実際配るとなると様々な許可などが必



日暮が早くなりました 夕日に十字架が映えます

要になる等様々な壁があります。しかし沼津でチラシ配りを行った時は比較的警戒されずに受け取ってもらうことが出来ました。ここにも地域性の違いが表れていることを感じました。

冒頭に書いた聖書箇所続きには、「ユダヤ人にはユダヤ人の様になりました」「律法を持たない者には律法を持たない者となりました」と続きます。この箇所には書かれている通り、今の時代も「蒲田には蒲田の人の様に」「沼津には沼津の人の様に」とそれぞれの地域に適した教会運営が大切だということを学びました。

◆日常生活の中の学び

私に任せて！

聴講生 石川牧子

「もー最悪！」……買って来たばかりの卵は冷蔵庫に入れようとして、パックごと滑って冷蔵庫内に落下。さらにジャンプして絨毯マットに落下。見事に白と黄色の破裂した悲惨な光景。思わず発した言葉でした。実はここに至るまでに既に失敗が重なり、自分の心の状態があまり良くなかったのです。幼稚園のママさんとの関わりに難しさを感じていたり、二学期

からはお弁当も始まり、料理が苦手な私には悩みの種。なので、卵が落ちただけで「もう最悪！」な訳です。呆然としている母の姿を見つめる娘。すると突然大きな声で「あさひに任せて！」と言ってベランダに出て行き暫く戻って来ず。べちゃべちゃの卵たちを落胆しながら片している、満面の笑みで「これ使えば大丈夫だよ！」と言って娘がタオルを渡してくれました。とても生き生きとして、自信に満ちて。「これ、お漏らししちゃった時にお父さんが大丈夫だよーって拭いてくれたやつ！」それは父親からおしっこも残念な気持ちも拭いてもらった慰めのタオル。ベランダで娘の手の届かない高さにピンチでしっかり干してあったもの。そしてベランダには吹っ飛んだと思われるピンチと踏み台が置いてありました。日頃は私が運んであげている踏み台を自分で頑張っって運び上げ、なかなか外れないピンチを何回もジャンプして私のために持つてきてくれたのでした。できないことに目を向けて平安を失っていた私と、少しでもできることに期待し、持っている以上の力を発揮している娘。あまりにも真逆な姿にハッとさせられました。幼き娘の私に対する愛。娘に注がれていた父からの愛。その背後にあるイエス様の愛が弱き私の立ち所を教えてくださいました。「わたしはあなたがたに平安を残します。……あなたがたは心を騒がせてはなりません。」

いま神学院では……
新ジャンル「子ども理解」の授業
 教師●戸塚雅昭



聖宣神学院の教師陣のまさしく端くれに加えられて2年目です。

今年度は、「キリスト教教育Ⅳ・子ども理解」の授業を担当いたしました。学習のねらいは、現代を生きる子どもの実態と子ども理解の方策を知り、それらに基づいた教会学校のあり方を考え、自らを問い直す点にあります。次の内容を120分×8回で学びました。

- ①聖書に登場する子どもたち（子ども目線に立って読む）
 - ②子どもの実態と取り巻く状況（学校現場から見えてくるもの）
 - ③子どもの現実と教会学校教案（分級でのお話・作成演習）
 - ④イエス・キリストの福音とは（福音の捉え方と子ども理解）
 - ⑤白黒はつきりできない問題課題（子どもにとって応えていくか）
 - ⑥子どもを救いの恵みに導くとき（子どもにとって救われるとは）
 - ⑦子どもの自立過程と教会学校（中高生の部活問題を考える）
 - ⑧子ども理解について学んだこと（学習の振り返りレポート）
- 本授業の特徴は次の二つです。
 【その一】子ども理解は人間理解

「キリスト教教育」の単元に、「子ども理解」のジャンルが新たに導入されたことは特筆に値します。その意義は、イエスさまが特別に子どもを愛された真意を考えるきっかけになるとともに、子ども理解は、人間理解に通じるからです。人間理解の極致はイエスさまの受肉です。この視点に立って神さまに創造された人間としての尊厳を大切にされることこそが、福音の本質であると思われまします。

【その二】臨床的・実践的な学び 子ども理解のための方策を知るだけではなく、子ども理解の難しさや、それに伴う課題を取り上げ神学生と共に考える毎回でした。自分の子どもの頃の体験や、教会学校での奉仕のあり方や、子育てにおけるさまざまな思いが授業に用いられ、知識の習得というよりも、自らが何が問われているかを振り返る、臨床的・実践的な学びになったと思えます。また、私の失敗だらけの教師生活の歩みの中で、特に子どもたちから学び教えられたこともお分かちしました。

子ども理解の原点は、子どもは「やがて子どもでなくなる人」であり、「次の時代を生きる人」でもあるという、当然でありながら厳粛な実感にあります。神さまに望まれて生を受けたかけがえのない存在が、自立に向かって日々成長する命そのものが子どもです。対面授業実現のためにお世話になった方々と、何よりも助け導いてくださった主に感謝いたします。

同窓生の近況

56期生
 COG川崎南部教会●古波津百代



この時期に執筆の依頼が来ることも不思議な主の恵みです。この一年は忘れられない特別な年となりました。私の牧会生涯の中でも大きな変化の年となりました。2008年卒業、そして結婚夫婦で川崎南部教会で奮闘12年目。自分で「奮闘」と言ってしまう

いましたが、本当に全力で駆け抜けてきた12年間だったと思います。キッズとユースと礼拝そして子育て。キャンプにイベントにお泊りそして子育て。牧師として一番若く動ける時間を思いつく事は全てして、体力も時間も精一杯でした。今年その全てが止まった時、残っていたものの、「頑張り」によって実った成果は何もありませんでした。それが正直な近況です。

その事を正面から認めた時、不思議な自由が来て、初めてこの牧師という働きが自分の中で動き始めているような気がします。主の働きがこの罪の世で「主を愛している一人一人」を通して現わされる。その現われが教会です。その教会に仕えられる喜びをもっと味わい体験してゆきたいと願います。

神学院スタッフ…恵みの想起

セルフコントロール

女子寮監 河村みち

コロナ禍でリモートワークが増え、企業では人に見られていなくても仕事ができる、セルフコントロールのできる人材を求めているという記事を目にしました。牧師の仕事も似ているなと思えました。加えて、牧師は心（見えない部分）のセルフコントロールができないと、奉仕は難しいと思っています。

神学院の教師しかりです。セルフコントロールができないと、次世代の神学生の能力が最大限に生かされる教育とならず、神学生を指導の対象とし、自分の優位性を証明する道具にしてしまうからです。心のセルフコントロールを学ぶことが大切だと感じています。

「あの方は盛んになり……」
 (ヨハネ二・30)

●後期に入りました。学びに集中できる期間です。静かな時が流れて行きます。

●今月は教師会が行われます。

●後期もリモートで開始、社会情勢を見ながら、対面授業を再開できるかを判断します。

●教室のプロジェクトとホワイトボードは新調されましたが、しばらく使用はお預けです。

●ベテルハウスは、マスク、手の消毒、ソーシャル・ディスタンス、換気などの感染防止対策のもと、久しぶりに後援会推進委員会を行いました。リモートと違った恵みのひとときとなりました。

●担当者が管理を継続的に、いつでも使っていた状態ですが、一般の宿泊利用再開の目処は立っていません。お問い合わせは学務課の馬場姉まで。

●図書館は動いています。

●神学院祈り会は行いません。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。9月の会計報告をさせていただきます。

9月分支援実状
 [今年度毎月献金目標]
 ￥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
 ￥714,400
 教会団体による「神学院献金」
 ￥562,300
 合計 ￥1,276,700
 その他の献金（一時・特別）
 ￥82,000

・振替：00230-0-10138

学苑だより



公報

本部通達

「見なさい。農夫は大地の貴重な実りを、初めの雨や後の雨が降るまで耐え忍んで待っています。」(ヤコブ5章7節)

今年も残り二ヶ月となりました。宣教師の方々とその働きのために祈りつつ、私たちもその働きに加わる一員としての自覚を新にして宣教師の間を過ごしてまいりましょう。宣教師日を過ぎるとアドベントももうすぐです。主イエスを迎える心の備えが養われる時として過ごしましょう。

■本部

9日(月)～10日(火)
教団運営委員会(ベテルハウス)
(予算書承認・責任役員会)

【感謝】

10月21日の教団創立記念日を覚え、各教会においては記念礼拝を守り、可能な範囲で感謝献金を実施してください。心より感謝申し上げます。

〈選挙管理委員会〉
今後の予定をお知らせします。
代表候補者の選出(予備選挙)

次は、次期代表を選出するための予備選挙(代表候補者3名を選出)を行います。この選挙の被選挙者は、教職代議員と職責上の教職代議員(現教団運営委員)の中で年齢制限・任期制限に該当する

方(2頁の名簿で*のついた5名)を除く計31名の方々です。

10月下旬に予備選挙の投票用紙を送付し、投票締切は11月16日(当日消印有効)です。その後開票・集計作業を行い、候補者3名を決定し、教報1月号の紙上に、氏名を公表します。

■国内教会局

〈会議〉
2日(月)

国内教会局運営委員会(オンライン)

《聖会》

◇沖繩聖会

日程 11月3日(火)

講師 大兼久芳規師

会場 那覇教会

◇静岡聖会

11月3日(火)を前後して

DVDを用いて各教会での聖会が行われます。

〈教区会〉

11月2日(月) 沖繩地区

■世界宣教局

▽10月6日(火)にオンラインでの局運営委員会、局員会を行いました。

▽宣教師日を目指して「宣教ビデオ」を全国にお送りいたします。「宣教コイン 献金」を用いての「愛の泉プロジェクト」にも取り組みますのでご協力をお願いいたします。

▽宣教師地への郵便、物資などは、コロナの影響に加え、クリスマスに向けてさらに遅延、紛失、盗難の可能性が高くなっていますのでご

注意ください。ザンビア、カンボジアは宣教師が国内待機なので郵便物等の発送は当面お控えくださるようお願いいたします。

《IWF関係》

▽ロビン・ホワイト宣教師ご夫妻は、10月17日に日本に再赴任されました。その後2週間は、自主隔離のため横浜のウエウレアン・センターに滞在します。問題がなければ、その後、金沢に向かいます(ご夫人の実家)。次の奉仕の拠点は、石川県内になると思います。

▽24日(火)にオンラインでの理事会を予定しています。

■教育局

〈教育部・信徒教育課〉
▽各教会で自由にご活用いただける信徒向け聖書講座(無料)が提供されます。

内容 〓「使徒の働き」の学び

講師 岩上敬人師(TEA総主事)

9月より基本的に毎月1回、教団HPの教育局のページに動画がアップされます。

(詳細は富士見台教会・野田師まで)

〈青少年部・青年課〉

▽YSB第5回全国リトリート

(Zoom開催)

日程 11月22日(日) 午後3時～5時

テーマ 〓「感謝とみことばの光を日々の歩みに」

講師 河村從彦師

▽12月27～29日に予定されていた今年のBTCリトリートは中止。それに代えて、12月29日(火)午

後に、献身者について意見交換をする「BTCフォーラム・オンライン」を開催予定。

〈青少年部・教会学校課〉

▽教会学校課のHP(CHURCH SCHOOL)ふれんず)上に、塗り絵紙芝居としてこれまで扱われなかったエピソードを新規に公開中。クリスマス関係のものもありますのでぜひご活用ください。「せかいのはじまり」「カナの婚礼」「ザカリヤとエリサベツ」「マリアとヨセフ」

▽後期の教会実習は10月25日(日)開始になりました。受入れ教会に感謝致します。

■聖宣神学院

石川順兄(東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会)

田中利道兄(イムマヌエル船橋教会)

林真光兄(蒲田シオン教会)

▽秋の教師会は12日(木) 詳細は後ほどご連絡します。

▽BTCリトリートは中止です。

▽神学院祈り会は行いません。

▽「後援会たより」第8号が発行されました。礼拝出席者の皆さまにお送りしています。

▽ベテルハウスに関する問い合わせは学務課・馬場姉まで。

■信徒局

▽局壮年部委員会

年會を越えて本年度初めての推進委員会が、新メンバーにより10月2日午後、Zoomによるオンラインで持たれました。

▽局女性部委員会

同じく新メンバーによる初めての女性部推進委員会が、10月16日夜8時からZoomによるオンラインで持たれました。

▽局運営委員会

10月26日夜6時から、4名の信徒委員は本部会議室において、2名の牧師委員とはオンラインによって持たれ、これからの信徒局の方針が決定されました。

▽eラーニングの新講座「へブル人への手紙」(高橋秀典先生)は、すでに講座が始まっていますが、今からでも最初から受講が可能です。お問合せは大津姉に。

教報PDFパスワード 7816

新生宣教団 定価 一部110円(税込) 郵便振替 001107133609

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

消息報告



▽インマヌエル水戸教会は、10月8日付で会堂土地建物の移転登記を終え、法人としてのイムマヌエル綜合伝道団の被包括教会になりました。お祈りごと協力に感謝いたします。

▽牧師退職に関わる「厚生委員会相談窓口」(担当・里村佳子姉)は、電話、またメールで相談を受け付けています。0823(26)8844(呉ベタニアホーム) yosi@bethania.or.jp

余裕をもって相談されることをお勧めします。介護等のご相談、希望する施設についての説明が可能です。またベタニアホームには現在空き室があるとのこと。eラーニングの新講座「へブル人への手紙」(高橋秀典先生)は、すでに講座が始まっていますが、今からでも最初から受講が可能です。お問合せは大津姉に。

教報PDFパスワード 7816

新生宣教団 定価 一部110円(税込) 郵便振替 001107133609

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部